

《薬局サーベイランスコメント》

『第 49 週（12 月 4～10 日）の推定患者数は前週よりも大幅に増加して 10 万人を超えた。第 50 週以降も更に増加することが予想される』

2017 年 12 月 12 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2017/2018 年シーズン）の 2017 年第 49 週（12 月 4～10 日）のインフルエンザの推定患者数は、薬局サーベイランス（<http://prescription.orca.med.or.jp/kaniyasuikei/index.html>）によると 116,132 であり、前週（第 48 週）の値（68,447）よりも大幅に増加しました。また、第 42 週以降 8 週間連続して増加が続いています（図 1）。休日明けの月曜日（12 月 11 日）の推定患者数は 39,886 と今シーズンの 1 日当りの最多数を大幅に更新しており、第 50 週以降もインフルエンザの患者数は更に増加していくものと予想されます。

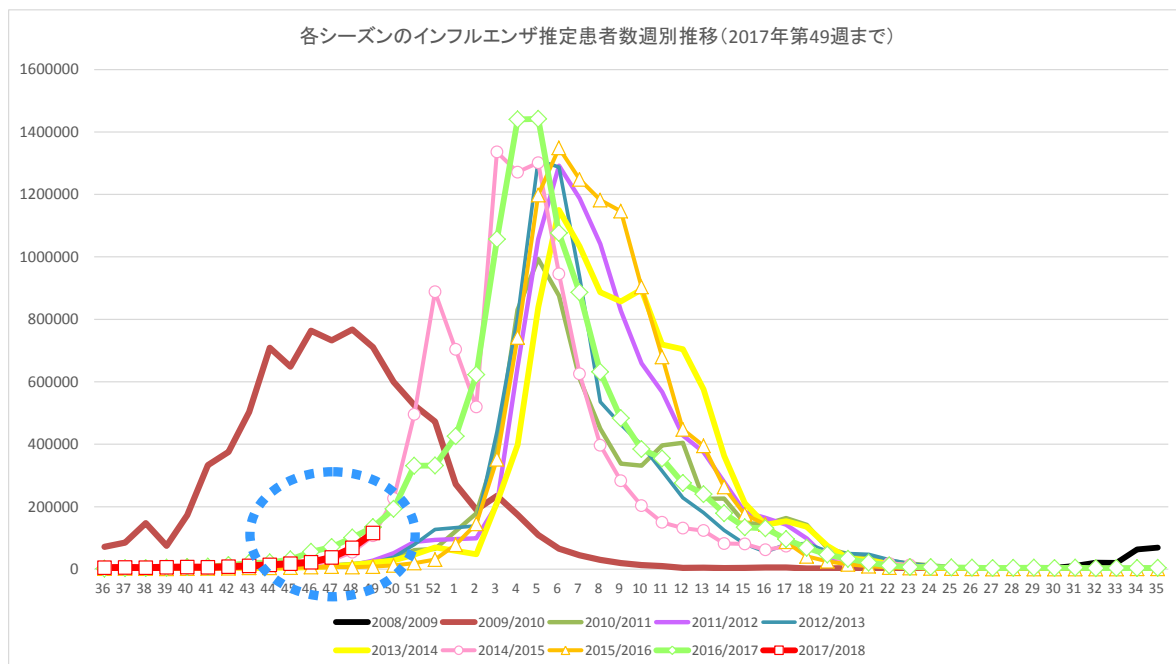


図 1. 過去 7 シーズンと今シーズン（2017/2018 年シーズン）の第 36～第 49 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2017 年第 49 週の推定患者数=116,132）

各都道府県別の第 49 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると福井県、北海道、石川県、熊本県、大分県、広島県、山梨県、徳島県、佐賀県、栃木県の順となっており、鳥取県、鹿児島県を除く 45 都道府県で前週の値よりも増加がみられています。

す。

2017 年第 36 週から第 49 週までの累積の推定患者数は 327,856（累積罹患率は 0.26%）であり、年齢群別での累積罹患率は 5～9 歳（1.50%）、10～14 歳（0.84%）、0～4 歳（0.80%）、15～19 歳（0.27%）、30～39 歳（0.25%）、40～49 歳（0.21%）、20～29 歳（0.17%）の順であり、14 歳以下の年齢軍が流行の中心となっています（図 2）。

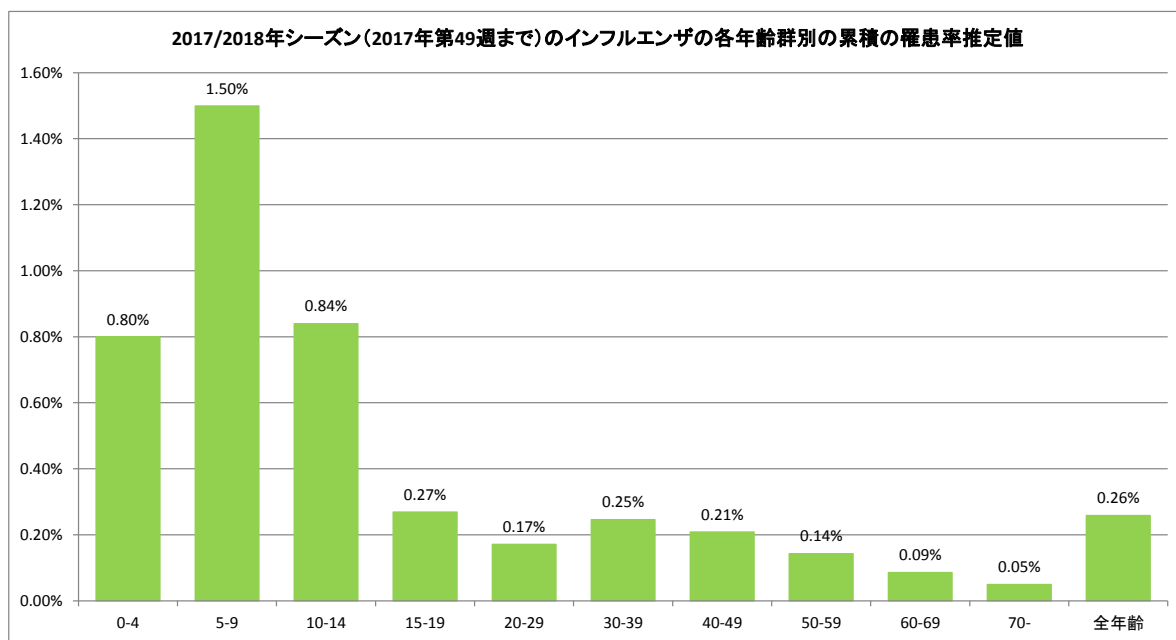


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2017 年第 36～2017 年第 49 週、累積推定患者数= 327,856)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（399 検体解析）は、A/H1pdm 47.9%、A/H3（A 香港）亜型が 29.1%、B 型 23.1%の順となっていて、AH1pdm の割合の増加が続いています。

既に 1 週間当たりの推定患者数が 10 万人を超えていますが、今週（第 50 週）、来週（第 51 週）と更に患者数は増加し、12 月中にもある程度の規模の流行となることが予想されます。今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。